

## ◆ 深い山々にいざなわれた信仰の里

福栄地域は、萩地域の東側に位置し、阿武台地の一角を占め、四方を緑の山に囲まれた農村地帯です。古くから人々が住まい、農耕を中心とした営みが行われる中で、各地に札所を置いて弘法様や観音様を巡る紫福八十八ヶ所や、迫害を受けたキリシタン信者たちを受け入れたという隠れキリシタン伝説、修験の場として使われた山々、木喰五行上人が滞在して残した仏像などが伝えられています。また、数多く存在する社寺には、昔ながらの祭礼が脈々と受け継がれており、人々が大切にしてきた山里のおたからが数多く残されています。

これら山間にのどかな田園風景が広がる、深い山々にいざなわれた信仰の里・福栄が、福栄地域のおたからです。

おたからの一例



隠れキリシタン伝説  
キリシタン祈念地



隠れキリシタン伝説  
マリア観音像



隠れキリシタン伝説  
三位一体像



木喰五行上人作 立木薬師如来



木喰五行上人作 観世音菩薩



霊場 永長山（宝積院）



紫福八十八ヶ所霊場  
（六十六番札所）



紫福八十八ヶ所霊場  
（六十八番札所）



祭礼 地神様

## ◆ 赤間関街道の宿駅町として発達した 三見市と街道の変遷

三見地区の中央に位置する三見市は、藩政時代、萩町から赤間関（現下関）へ通ずる「赤間関街道北浦道筋」の街道沿いにおいて、寛文5年（1665）に人馬継ぎ立ての宿駅に取り立てられ、街道の要衝に発達しました。

現在の三見市は、当時の宿駅の様子をよく留め、町並みとともに、仁王像や毛利家の家紋入り鬼瓦、藩主が休息した本陣・色雲寺、薬問屋の三島屋、御高札場跡、目代所（駅）跡などが残っています。

その他にも、玉江坂と御駕籠建場跡、中山箕ノ越焼窯跡、床並壱里塚跡、石組三見橋および石組暗渠など、江戸・明治・大正にかけて変遷していった「街道に関わるおたから」が残っています。

これら赤間関街道の宿駅町として発達した三見市と街道の変遷が、三見地区のおたからです。

おたからの一例



赤間関街道の宿駅町 三見市  
（御国廻り行程記 萩博物館蔵）



旧街道床並の壱里塚



旧県道の三見橋（通称眼鏡橋）



旧宿駅町三見市の町並み



三見市目代所跡



薬問屋の三島屋



旧街道玉江坂



玉江坂御駕籠建場跡



中山箕ノ越焼

## 萩のおたから

萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業では、地域のおたからを再発見して、「萩のおたから」として地域から推薦し、市民が互いに認め合い、データベースで公開して活用する取り組みを行っています。これからも、萩のおたからを未来に引き継ぐため、萩市民が協力しあい、守り育て、いかす活動を進めていきます。

萩のおたから（文化遺産）とは…

- ・地域らしさを作り出している「もの」や「こと」
- ・地域のことを物語る上で欠かせない「もの」や「こと」
- ・地域のたからとして大切に守り伝えていきたいと思う「もの」や「こと」

平成26年（2014）度の活動

- |      |        |   |
|------|--------|---|
| 2014 | 4月23日  | 第3回実行委員会  |
|      | 5月～    | 各地（堀内・平安古・城下町、土原、川上、福栄、三見）で<br>現地調査・資料調査<br>地域おたからマップ原稿作成<br>地域交流イベント企画・準備                |
|      | 6月25日  | 地域おたからワークショップ<br>「地域のおたからをつなごう」<br>講師：西山徳明教授<br>萩博物館講座室においてトレイルづくり                        |
|      | 8月31日  | 福栄地域 交流イベント<br>「世界遺産候補と福栄の実りを先取りしよう！」   |
|      | 10月11日 | 土原地区 地域交流イベント<br>「土原の歴史を散策する会」  |
|      | 11月10日 | おたから活用ワークショップ<br>「フェノロジーカレンダーを作ろう！」<br>講師：西山徳明教授、真板昭夫教授<br>萩博物館講座室においてフェノロジーカレンダー（季節暦）づくり |
|      | 11月14日 | 川上地域交流イベント<br>「紅葉の長門峡を訪ねて」  |
| 2015 | 12～1月  | 各地で推薦するおたからの検討・推薦資料作成   |
|      | 2月18日  | 文化遺産認定委員会   |
|      | 2月25日  | 萩まちじゅう博物館おたから総会<br>各地域からおたからを推薦発表、<br>市民が「萩のおたから」として認定                                    |





## ◆ 維新の志士が往来した当時の風景を 今も残すまち

堀内は、萩城三の丸に位置し、藩の重臣が住んでいたところで、町筋に沿って土塀や石垣、長屋や長屋門が残っています。禁門の変の引責で切腹した悲運の三家老、益田右衛門介・福原越後・国司信濃の屋敷跡もあります。外堀の周囲に位置する平安古・城下町地区は、中級武士・町人が住んでおり、御成道には豪商が軒を連ねていました。町筋は碁盤目状に画され、なまこ壁の土蔵や土塀、志士の旧宅などが残っており、幕末の面影をよく留めています。改革を推進し雄藩へと導いた村田清風の別宅跡や、常に時代の先頭に立って活躍した明治維新の英傑 木戸孝允（桂小五郎）、奇兵隊を組織し維新回天の扉を開いた幕末の風雲児 高杉晋作、尊王攘夷の急先鋒となって活躍した松下村塾の英才 久坂玄瑞などの誕生地があります。

激動の幕末期を駆け抜けた志士たちの足音が、今にも聞こえてきそうな当時の風景を残す町並みと彼らにまつわる史跡や物語が、堀内・平安古・城下町地区のおたからです。

おたからの一例



堀内の鍵曲 (かいまがり)



旧繁沢家長屋門



益田家物見矢倉



平安古の鍵曲 (かいまがり)



久坂玄瑞誕生地



村田清風別宅跡



菊屋横町



木戸孝允旧宅



高杉晋作誕生地

## ◆ 松本川に育まれた人々と武家の町割り

萩城の東方、阿武川の支流松本川の川岸に位置する土原は、軍事的要衝で石州街道の玄関口でもあります。江戸時代には萩城下の中下級武士の約4分の1がこの地に住んでいました。川沿いの筋には長屋門や礎石が多く残り、往時の町割りをしのばせます。松本川の川面にその美しい姿を映すクロマツ群やモミの巨木、点在する川船のハトバは土原独特の景観を醸し出しています。

一方、萩城方面には武士の学ぶ藩校明倫館、川を渡った松本村には武士以外にも学ぶことができた松下村塾があり、幕末から明治にかけて国事に奔走し、あるいは藩内の政争で志半ばで非運に倒れた志士が多いのも土原の特徴です。

土原の風土を形成する松本川沿いの景観や維新後の国の発展に尽くした人々、維新の礎となった人々にまつわる遺構などが、土原地区のおたからです。

おたからの一例



寄舟山 弘法寺



弘法寺の社叢 (クロマツほか)



松本橋と扇の芝



小川家長屋門



武家の町割を示す礎石



松本川沿いの景観



松本川沿いのハトバ



萩橋下のシロウオ漁



前原一誠旧宅

## ◆ 阿武川とともに生きた山里の歴史と営み

川上は、緑豊かな山々の中央を県下第二の長流・阿武川が流れ、「椿郷の内にて水上に当る故に川上と呼んだ」とあるように、地名や歴史、人々の生活も、阿武川とともに生きてきた地域です。

約1億年前の火山活動によって生まれた溪谷・長門峡を上流に持ち、そこを流れ、やがて2つの支流となって日本海へと注ぐ阿武川、平家の落人伝説を伝える集落の地名、阿武川の流れを利用し川船を使って萩城下に薪炭を供給した歴史、川上の暮らしを守った二義民の物語、治水のために現在はダム湖底に沈んだ地区の名残、流域の険しい地形を工夫して利用した林業やゆず栽培など、古くから阿武川とともに暮らしてきた山里のおたからがあります。

これら阿武川とともに生きた山里の歴史と営みが、川上地域のおたからです。

おたからの一例



長門峡



長門峡 紅葉橋



長門峡 重嶺岩



平家落人伝説を伝える五輪塔婆 (ごりんとうば)



阿武川とともに生きた山里の民俗資料川船と川漁の道具類



舟が通っていたことを示す地名を持つ船戸神社



阿武川と二義民 (背向地藏)



川上のゆず



県下最古の挿し木杉